

藤原岳 & 御在所岳山行報告

【山行日】 2023年5月27～28日(土日)

【集 合】 岩舟支所P AM 3:00

【費 用】 マイカー1台 : 17,100円

【メンバー】 CL:鈴木 SL:関

飯野、石澤、小林、嶋田、福島

5月27日(土) 晴れ 藤原岳登山口から聖宝寺コースを經由して藤原岳に登り、藤原荘で昼食後八合目から大貝戸道を下って藤原岳登山口Pへ下山し、湯の山温泉「湯の山ロッジ」に宿泊する。

岩舟支所 P3:00=藤原岳登山口 P7:55/8:15~

聖宝寺 8:30~八合目 10:10/10:20~藤原荘 10:55/11:05~藤原岳 11:15/11:30~藤原荘 11:45/12:15~八合目 12:45~六合目 13:10/13:15~藤原岳登山口P14:00/14:15=湯の山ロッジ 15:20

1 日目は、鈴鹿山脈の北端に位置する藤原岳を目指す。藤原岳は「花の百名山」の一つとして有名。また「鈴鹿セブンマウンテン」の一座である。行く前から期待が高まる。岩舟支所を予定通り3時



に出発。天気の予報は「てんくらA」とあり、期待が膨らむ。途中、静岡 SA で朝食をとってから、藤原岳を目指して一路高速を走る。7時55分登山道入り口近くの有料駐車場(300円)に駐車。駐車場の綺麗なトイレをお借りし、身支度を整え、準備運動をして8時15分、元気に出発。往路は聖宝寺道(裏道)から頂上を目指す。歩き始めると鳴谷神社が見えてくる。この神社は狛犬ならぬ狛猿が出迎えてくれた。猿は神様の使い「神猿(まさる)」として大切にされていたそう。「見ざる」「言わざる」「聞かざる」が石に掘られていた。パワースポットらしい。真剣に登山の安全祈願をした。その後引き戸式の動物よけのフェンスから入り、長い階段を歩いていくと途中多くの釣り人で賑わう釣り堀がでてきた。釣り堀を過ぎるとやっと登山道入り口だ。登山道を歩いて行くと堰堤が見えてきた。この堰堤の脇の道を登り、裏側を下り、沢を渡渉して登山道に入っていった。ひたすら樹林帯を進んでいくと、「二合目」という看板が見えてきた。すでに汗だくである。ひたすら急登を黙々と歩く。予報は晴天だったが、山頂を仰ぎ見ると雲の中。樹林帯の中はやや薄暗く湿気もあり蒸し暑い。



に出発。天気の予報は「てんくらA」とあり、期待が膨らむ。途中、静岡 SA で朝食をとってから、藤原岳を目指して一路高速を走る。7時55分登山道入り口近くの有料駐車場(300円)に駐車。駐車場の綺麗なトイレをお借りし、身支度を整え、準備運動をして8時15分、元気に出発。往路は聖宝寺道(裏道)から頂上を目指す。歩き始めると鳴谷神社が見えてくる。この神社は狛犬ならぬ狛猿が出迎えてくれた。猿は神様の使い「神猿(まさる)」として大切にされていたそう。「見ざる」「言わざる」「聞かざる」が石に掘られていた。パワースポットらしい。真剣に登山の安全祈願をした。その後引き戸式の動物よけのフェンスから入り、長い階段を歩いていくと途中多くの釣り人で賑わう釣り堀がでてきた。釣り堀を過ぎるとやっと登山道入り口だ。登山道を歩いて行くと堰堤が見えてきた。この堰堤の脇の道を登り、裏側を下り、沢を渡渉して登山道に入っていった。ひたすら樹林帯を進んでいくと、「二合目」という看板が見えてきた。すでに汗だくである。ひたすら急登を黙々と歩く。予報は晴天だったが、山頂を仰ぎ見ると雲の中。樹林帯の中はやや薄暗く湿気もあり蒸し暑い。



しかし立ち止まるとひんやりした風が心地よい。途中途中に「三合目」「四合目」という看板が出てきて勇気づけられる。このあたりで、ヒルを発見し、体についていないか確認しながら歩みを進める



が、一人がヒルにかまれた。「八合目」の開けたところに出たところで、休憩。ヒルにかまれた箇所の治療をしていると、鬼滅の刃の煉獄杏寿郎のコスプレをした方に遭遇！本人曰く「復活してきた」そうだ。一緒に写真に収まっていた。尾根に出ると、藤原岳は石灰岩で形成されているカルスト地形の山だけあり東斜面で採掘が行われている様子が窺えた。バイケイソウなどの花を眺めながら歩くとほどなく藤原山荘に到着。10時55分。ここにはバ

イオトイレも設置され、気持ちよく休憩できた。霧も晴れ、目指す山頂がくっきりと見える。所々に低木が生えまるで草原のような風景である。(下山後知ったが藤原岳は「関西の秋吉台」とも言われて

いるカルスト台地のような。思い返すとまさしくあの風情は秋吉台だった。登山前に知っていればもっと景色を堪能できたかもと勉強不足をいまさらながらに後悔。)しかしながら気持ちよい風景の中を足取り軽く頂上を目指して歩くこと10分。11時15分登頂。山頂からは360度の展望で、明日登る御在所岳も見えた。登ってきたかいがあった。ここでまたまた煉獄杏寿郎さんに遭遇。記念撮影をして



いただくがかけ声は勿論、「全集中」…いい写真が撮れた。眺望と記念撮影を堪能した後、昼食をとるべく藤原山荘へ戻る。いよいよ昼ご飯。お湯を沸かし思い思いの持参した昼食のほかに皆さんの手作りチャーシューやきんぴら、ちくわのサラダなどをおいしくいただいた。12時15分下山開始。復路は8合目から大貝戸道(表道)経由で下山。つづら折りのなだらかな歩きやすい道だった。「バイケイソウ」「アセビ」「ツツジ」などの花々や山頂付近



で出会った雀のようで尾羽が白い「ホオジロ」と思われる鳥、そして煉獄さん、珍しい狒狒に出会い、印象深い山となった。無事下山した後は本日の宿である国民宿舎「湯ノ山ロッジ」へと向かう。途中で給油しようとしたがスタンドがなく、ロッジ到着後場所を聞いて再度スタンドに向かい無事に給油を済ませ、再び宿に戻りチェックイン。「光明石 天然鉱石温泉」につかり疲れを癒やした。(不名誉ながら、ヒルにかまれた人があと二人発見された。自覚症状はない。これがヒルの

恐ろしさ。気をつけよう、ヒル対策は万全に。)温泉後はもちろん、反省会で大いに盛り上がり、その後おいしい夕食を思う存分堪能し明日への活力を養った。

5月28日(日) 曇り 中道登山口近くの駐車場に車を止め、中道コース経由で御在所岳山頂に登り、朝陽台で昼食後一の谷新道を下って駐車場に下山し、岩舟支所に帰着する。

湯の山ロッジ 8:00～中道登山口P8:10/8:30～おばれ岩 9:00/9:10～朝陽台 10:20/10:30

御在所岳 10:50/11:05～山上公園 11:20/12:00～中道登山口P13:00/13:10＝岩舟支所 P19:00

日本二百名山として知られる三重県菟野町の御在所岳、全員が初めて登る山、ワクワクです。



中道登山口すぐ近くにある駐車場に車を止め、ストレッチをしてからスタート。最初は木々の中ゴロゴロした石の中を歩く。登るにつれ花崗岩の岩肌が変わり、グングン高度を上げて行く。いきなり展望が開け3合目分岐看板があり、ガレ場や鎖等々をひたすらに登り下りを繰り返して4合目、「おばれ岩」に到着。大きな岩が2枚重なっていて、その姿が負ぶさっているように見えるため「おばれいわ」と呼ぶそう。岩の間をくぐると何のことはない展望が開け下界が。。。。またくぐって巨岩の登り下りを繰り返し5合目展望所へ。展望の開けた平らな巨岩上に立つと街並みが下方に見えた。

まもなく石柱2個の上にサイコロのような岩が乗っている地蔵岩に着く。何とも面白い奇岩だ。写真で見たことはある

が実物で見るのは初めて。どのようにして岩が載ったのか、何とも魔訶不思議???そこを後にしてゴロゴロの巨岩を抜けて歩くと6合目キレットの看板。鎖有りのキレットを下り(中々スリル感がありグー)ゴロゴロ急な岩場を登り7合目かもしか広場の看板、シロヤシオが咲いている。急こう配と小さな鉄梯子を上がるといきなり山上公園に。公園内の広い舗装道路を歩き一等三角点のある頂上へ。



頂上は滋賀・三重の県境との看板有。伊勢湾・琵琶湖見えるはずだがガスが。。。。頭の中で想像する。記念撮影後山上公園に戻り各々持参したランチを食べる。その後下山は一の谷新道コースへ。最初は笹の細い道を下りそのうち岩が多く急勾配が連続し、木の根っこ根っこの段差のある道を枝に捕まりながら下る。途中巨岩、「松茸岩」に。言われればそのように見えるかもです。また、ドンドン下る。このコースは中級の上コースとの看板有。なるほどと思いながら下る下る。と開けた場所へ。

そこからは赤いロープウェイと白い鉄塔が見える展望岩、『ヤッホー・ヤッホー』との声。ロープウェイに乗った人が私たちを発見して発した？私



たちも【ヤッホー・ヤッホー】と返す。嬉しいな。また急勾配根っこ根っこの段差のある道を枝に捕まりながら(私は躓きながら)スタートの中道登山入口に着いた。私の思っていた山とは違い少し険しいがなかなか変化にとんだ奇岩の山であった。再度企画あれば一の谷新道を登るコース(急登・急勾配木ノ根だらけの登る登るの登山道)に挑戦したいなと思います。今回初めての山でしたが、変化に富み面白くとても楽しく歩くことができました

た。リーダーのSさん、企画ありがとうございました。

関 記